

現代お姫様考 そしてキャリアへ

亀田 温子

昨年多くの女性たちを魅了した映画に「アナと雪の女王」があります。ここではお姫様はどう描かれていたのでしょうか。お姫様が2人登場するダブルヒロインのキャスティング。そして王子様は登場しますが、女王の地位を利用するダメ王子。白馬にのった素敵な王子様は登場しません。最後にハッピーエンドの結婚式——、これもないですね。お姫様の描き方も変わりました。そもそも原題は「アナと雪の女王」というお姫様の名前ではなく、「FROZEN」なのです。エルサが持っている“凍らせる”という偉大な力。エルサを悩ませたこの力を“ありのままの自分”として、冬の国ではなく夏の国を作ることを引き出したのは、妹のアナでした。自分の力を肯定してくれるもう一人の女性の存在が重要です。王子様に救われるのではなく、一人の女性が生きることと、もう一人の女性とのつながりを見事に見せてくれました。

このように、時代と女性像の変化を授業で読み解いていたとき、女子学生がこの後のアナは「お姫様の生活じゃなく、やっぱ、起業するとかビジネスをはじめますよね!」と言い出しました。うーん、なるほど、そう読んだか。

現在、特に女子大学では、女子大学生がどのように社会とつながり生きるか、その道を探り・つなげる力を長期にわたりエンパワーメントすることが大きな課題となっています。生きることのなかに、仕事が1回の就職で終わるのではなく、さまざまな状況で多様な形で必ず入ってきます。だからそのつながりをとらえる「キャリア」という言葉が必要になっているのです。大学のキャリアモデル報告会で登壇された、大企業就職から一人起業で会社を作ったアラフォーのAさん、1つの企業でキャリアアップし女性初の立場にたつ30歳代半ばのBさん、学生時代NPOで活動し企業就職活動もおこなったがやはりNPOに就職した20歳代のCさん、企業に勤めながらNPOで長年活動する複合キャリアの50歳代Dさん。社会や仕事とつながるこんな素晴らしい女性たちのキャリアの語りを、若い女性たちにもっと伝えましょう。“少しも寒くないわ!”



PROFILE

かめだあつこ：十文字学園女子大学人間生活学部教授。本財団理事。日本社会教育学会理事。学生、成人女性の教育とジェンダー、女性のエンパワーメントに取り組む。大学では学生のキャリア形成やキャリアモデル・ケース研究を行う。編著に『女性校長のキャリア形成』（尚学社、2009）、『女性のキャリア形成支援ハンドブック』（日本女性学習財団、2011）、『NVEC 実践研究・複合キャリア』（国立女性教育会館、2012）など。